

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無
--------------------------------------	---

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

● 効果的な授業	● 児童生徒の資質・能力向上	● 教員研修	● ICT活用指導力向上
● 校務の情報化	● 保護者や地域への情報発信	● ICT環境整備	● ICT活用サポート
● ICT活用推進	● 学校運営・管理	● 保護者や地域による学校支援	● 地域での児童生徒学習支援
● 学校行事	● 通級指導教室・特別支援学級	● その他 (

学校又は団体名 (実践時)	宝仙学園小学校		
団体種 (校種、NPO 等)	小学校		
応募者	応募者※1	中村 優希	教諭
氏名漢字、職名、氏名カナ、 学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入 ※連名での応募も可	連名者 (3名まで)	ナカムラ ユウキ	
学校や団体への所属年数(応募者)	4	ICT夢コンテストの参加を希望する回数(応募者)	4

実践事例タイトル ※40文字以内・サ行以外は不可	児童・保護者の学びを更新する「保護者参加型オンライン授業」		
実践の特長 (先進性、普及性) のどちらか一つ選択 ※どちらかといえば該当すると思う方の項目の左に●を記入	● 先進性		普及性

下記項目は改行せずに記入をお願いします。自由記述ですが審査の参考としますので、必ず記入(なければ“特に無し”)をお願いします。

教科もしくは分野	国語
対象者 (学年・他)	小学校第2学年 児童 37名
教科の単元 (わかる場合のみ記入 複数可)	音読劇『お手紙』
実践場所 (遠隔、PC 教室、体育館等)	アクティブラーニングルーム『My. Lab. (マイラボ)』
実践時期	2020年11月
活用した ICT 機器、教材、環境等	iPad、Google フォーム、Google スプレッドシート、Google ドライブ、ZOOM

アンケートをお願いします。コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。● を記入してください。複数選択可です。			
案内ポスター	●	前から知っている	教育委員会からの紹介
案内チラシ		事務局メール	ニュース媒体から
ご意見			上司や友人・所属団体からの紹介
			JAPET&CEC ホームページより

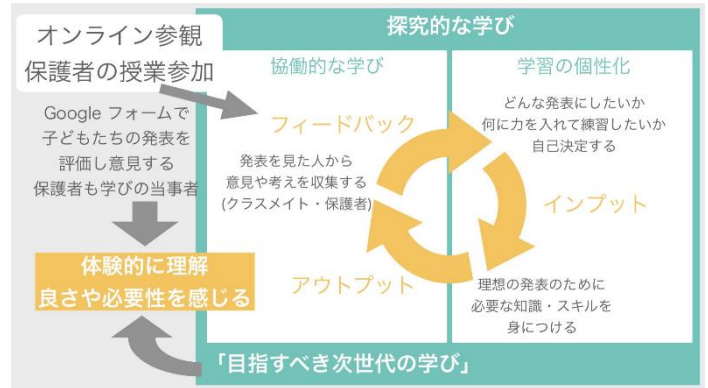
- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください(実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・応募事例に、図や写真を組み込むことでより実践が分かりやすくなるようにしてください。
- ・フォーマットの変更はしないでください(実践内容部分も2段組にせず、1段組のまま記述してください)。
- ・参照URL、QR コードの使用は不可です(応募書類以外の情報は審査対象外です)。
- ・表紙記述1頁と実践事例内容記述2頁以内、計3頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。
- ・実践事例の記述はMS明朝11ポイントのフォントを使用してください、また46文字/行を目安としてください。

画面をじっと見るだけのオンライン授業参観で、子どもたちが経験している令和の学びは保護者に理解してもらえるだろうか。オンラインでの視聴に加え、保護者も授業の当事者として、子どもたちの発表にその場でフィードバックを行う、参加型の授業形式にした。普段は得られないような意見に触れながら、自分たちで学びを創り上げる楽しさを子どもたちは感じる事ができた。また、保護者にはその様子を経験的に理解してもらうとともに、これまでの教育に対する価値観を更新することにつながった。

(1) ICT活用の目的とねらい

●保護者参加型オンライン授業参観の意義

GIGA スクール構想×新学習指導要領によって、目指すべき次世代の学びが明らかになり、子どもたちに求められる資質・能力も変化してきている。我々大人が経験をしてきた学びとは異なるために、学校だけでなく、保護者の教育に対する価値観のアップデートの必要性が、これまで以上に高まっている。



そんな中、コロナ禍でも子どもたちの様子を家庭に届けようと、多くの学校でオンライン授業参観の取り組みがなされてきた。本校も「ZOOM」を活用し、毎学期オンライン授業参観を実施することで、保護者への情報発信を続けてきていた。その一方で、映像を配信しているだけで「保護者に学びの意図は伝わるか」「本当に子どもが学ぶ姿を見ているか」と疑問を持ち続けていた。

2021年4月26日、日本教育新聞 NIKKYO WEB 上で「GIGA スクール構想への保護者の理解『理解していない(聞いたこともない) 59・2%』『あまり理解していない 21・6%』」と報道され、約8割の保護者がGIGA スクール構想への理解が不十分だと明らかになった。令和の時代に求められる学びの姿が保護者に届いていないということであり、私が抱いていた疑問が実践後にくしくも証明される形となった。

本実践は、ZOOM 上で「音読劇 『お手紙』」の発表を見ながら、Google フォームで子どもたちへのフィードバックを求める、保護者参加型のオンライン授業参観の提案である。保護者が学びの内側に入り、当事者として授業にかかわることで、これから必要な資質・能力を体験的に理解してもらえると考えている。

●ICT活用の目的とねらい

ICT活用の目的は「多くの人からの意見・考えを収集する」ことである。Google フォームを使用することで、即時に多様なフィードバックを得ることが可能となる。特に保護者からの大人の視点での評価は、子どもたちにとって新鮮である。データは自動集計されるため、低学年でも情報の分析を行うことができる。その結果浮かび上がってきた課題の中から、解決の過程・内容を自分で選択し取り組んでいく。

そのねらいは、「探究的な学びを実現していくこと」である。自分がしたいと思うこと・方向を見つけ、自分なりの解決に取り組むことを認め伸ばしていくことが、子どもたちの学びの意欲を高めるためには大切であると考えている。また、クラスメイトや考えを伝え合うことや保護者から意見をもらうことで、考えが深まったり、更新されたりしていくこともある。多様な交流の中で、自己と他者の考えをどちらも尊重しつつ、自己決定する機会をたくさん与えたい。



(2) 実践の特長・工夫 (先進性があるか または普及性があるか)

●活動の展開 第2学年国語『お手紙』音読劇

意見を伝え合い、理由を大切にしながら進めていくことを、子どもたちと常に確認しながら授業を展開した。

図2 保護者に授業参加を求めるお便り

写真 1 評価データを基に話し合う様子



- ①教科書『お手紙』を読み、場面の様子をとらえる。
場所や登場人物の発言・行動を確認する。
- ②グループで分担を決めて発表の練習をする。
1人練習(個人)→グループ練習→グループ練習
(違うグループにいる同じ役が集まって一緒に練習)
グループ練習では、相手の良いところと
まねしたいところを伝え合い、自分の発表につなげる。



- ③「みんなが審査員」各グループの発表を見て、
Google フォームでお互いにチェックする。(写真1)
Google スプレッドシートの集計データを分析し、
より伸ばしたい部分をチームで話し合い練習する。

写真 2 オンライン授業参観 ZOOM 画面

- ④「中間発表会」保護者参加のオンライン授業参観(写真2)
発表を ZOOM でオンライン視聴し、子どもたちへのアドバイスや感想を Google フォームで送信する。
この結果を基に、子どもたちは最終発表に向けて、グループでの話し合い・練習を行う。
- ⑤「最終発表会」発表の様子を動画として記録し、Google ドライブを通じて児童・保護者と共有する。

●実践の先進性

オンライン授業内で保護者に授業参加を促すことは、これまでにない取り組みだと考えている。子どもたちが生きるこれからの時代では、オンライン上でのやりとりを学びにつなげることが必要不可欠である。大人の視点からの正当なフィードバックをもらい、自分たちなりの答えを追求・改善する経験を積み上げていった。自分の考えや発表の仕方を更新していく楽しさを、低学年の内から感じられたであろう。

また、Google のクラウドプラットフォームを活用し、保護者や児童同士のやりとりを容易にした点で普及性も高いと考えている。Google フォームにより、使用端末や環境を問わず保護者から児童へのフィードバックが可能となる。児童は共有 Google ドライブにメンバーとして管理されており、回答が記録されたスプレッドシートへの同時アクセスが可能である。ネットワークを通じてクラウドサービスを活用する、保護者・児童のモデルとして、GIGA スクール構想の可能性を切り開くものになるのではないだろうか。

(3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

実践後に、担任するクラスの児童 37 名に対して、自己評価アンケートを実施した。(図 3)

クラスメイトの発表を見て、良さに気づいたりアドバイスをしたりすることを通して、何をどうするか自分で考えようとしていた児童が多いことが判る。自由記述の部分では、「お家の人と友だちが、ちがうところをおしえてくれて、よかった。」と書く児童もおり、多様なフィードバックを肯定的に捉える姿も見られた。

	とてもできた	できた	あまりできなかった	できなかった
お友達の発表を見て「ここがいいなあ」が見つかりましたか?	34	3	0	0
お友達の発表を見て「どうしたほうがいいよ！」が見つかりましたか?	31	6	0	0
お友達やお家の人からのチェックを見て「どこをよくしたらいいだろう?」と自分で考えましたか?	33	2	2	0

図 3 授業後のアンケート(児童)

保護者へのオンライン授業参観アンケートでは、

- ・お友達の発表を真剣に聞き、良いところを見つけ合うことが、クラス全体の学びに繋がると感じました。
- ・のびのびと発表…(中略)…違う目線で参観することが出来たことにうれしく感謝致します。
- ・他の子の良いところを発言する姿から、普段も尊重し合いながら生活している様子が想像できました。などの感想が得られた。オンライン上であっても、授業に参加し子どもたちの変化・様子に触れることで、子どもたちが経験する学びの在り方、その学びの良さ・必要性を多くの保護者が理解したと感じている。

本実践では低学年ということで、クラスメイト・保護者との関わりを中心にした。学年とともに地域や社会の人など範囲を広げ、より多様な考えに触れる学びを実現していきたい。